

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 太陽の広場)

事業所番号	0673000477		
法人名	医療法人 徳洲会		
事業所名	グループホーム ひまわりの丘		
所在地	山形県東田川郡庄内町松陽1-1-6		
自己評価作成日	成 26 年 10 月 7 日	開設年月日	平成14 年 3 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○庄内町、近隣自治会との繋がりと、ご長寿サポーターによる行事などへの協力、合同避難誘導訓練。
○生活意欲の維持として、食材切りなどは入居されている方々より、可能な限り行っていたい。○活動意欲の維持として、様々なレクリエーションを企画している。
○地域社会との交流として、入居されている方と一緒に買い物に行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株) 福祉工房		
所在地	〒981-0943 仙台市青葉区国見1丁目19番6号-2F		
訪問調査日	平成26年 11月6日	評価結果決定日	平成26年12月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

行政との連携によりご長寿サポーターの派遣受け入れが行われ、利用者とのコミュニケーションの強力な助っ人となっている。今年度は支援のあり方を見直し、より理念に沿った支援の取組を行っていくことを目指している。防災訓練などを通じた地域との連携も活発に行われており、隣接する同一法人の老健施設との連携、又隣接する庄内余目病院との連携等安全面、医療面において安心して過ごせる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	徳洲会の理念に基づき、地域未着型サービス事業所として、地域で暮らし続けられるという理念を謳い「迷った時の道しるべ」として、職員は共通の認識をもち実践している。	事業所としての理念の見直しを行い、理念に沿った支援を目指し、長寿サポーターの協力を得ながらレクリエーション活動の充実化や、お墓参り、駅伝での応援、買い物等その人らしい生活の追及を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設されている介護老人保健施設と共に、地域との繋がりを大切にしている。花壇の花植えや草取りなどの町内会や子ども会との交流、ご長寿サポーターなどボランティアの受け入れ、警察署・消防署・自治会・家族会との防災ネットワーク連絡会も提携している。	警察署・消防署・自治会、家族会と防災ネットワーク連絡会を結成しお互いに提携している。花壇の草取りや花植え等を通じ町内会や子供会等地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	庄内町で企画しているご長寿サポーターの研修を受け入れしている。食材などは出来るだけ地元で購入している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加されている方からの意見や情報などで、サービスの向上に繋がる事はとりいれている。ホーム側からの相談にもアドバイスがいただいている。	自治会長・行政・ご長寿サポーター・家族会・訪問看護師・第三者委員の参加で2か月毎に開催している。事業所の報告や行事、課題等を話し合い、アドバイスや意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町に入る情報は、随時連絡が入っている。ホーム側からの連絡や相談にも迅速な対応をいただいている。	運営推進会議での参加や、ご長寿サポーター（第3木曜日6名）の受け入れなどを通じ行政との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束はしないという理念の基、介護を実践しており、身体拘束ゼロ、虐待防止委員会による毎月の巡視、勉強会も企画しており、身体拘束に関しての意識づけはできていると認識している。	介護老人保健施設余目徳洲苑と合同による身体拘束・虐待防止委員会による毎月巡視及び法人内研修で職員への周知を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自己評価項目(6)と同様		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加し、研修内容は職員に回覧している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に今後の意向を確認し、確認印を頂いている。又、契約書は押印する前に自宅に持ち帰り細確認もできるように考慮もしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者一人一人に担当職員を配置し、その役目を担っている。苦情や相談については、苦情・相談処理委員会に対応し、機長なご意見として反映に繋げている。	各居室の担当者が決められていて毎月の利用料金の請求の時に利用者の状況、情報を知らせている。又、「ひまわり通信」で写真等を入れて利用者の様子を知らせている。家族に対するアンケート調査は法人本部で行っているが、事業所独自では実施されていない。	事業所として、家族の意向、希望等を聞き事業所改善に役立てサービスの向上をしていく事が望まれる。
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ある運営会議で話し合った内容については、会議議事録を全職員に回覧している。又、フロア会議で運営に関する提案がある時は、取り上げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回(上期・下期)各職員からの自己評価に対して、個人評価と面談を行い、個々の努力や実績を称えている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員会で勉強会の年間計画を立てていて、計画的に勉強会に参加できるよう配慮している。又、関連施設での勉強会に参加で、学ぶ機会も多く設けられている。法人以外への研修参加もできるだけ、参加できるように配慮している。	法人本部の教育委員会で年間計画が作成され、職員の参加が義務づけられている。外部研修に1人は参加できるように配慮している、外部研修に参加した時は復命書提出、必要な時は伝達研修が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	庄内地区GH連絡協議会に所属していて、協議会で企画している研修に参加することで、情報交換の場もあり、サービスの向上にもつながられている。	庄内地区GH連絡協議会に参加している。交換実習にも参加して他の事業所と交流している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人との面会を行い原則として本人からの入居の承諾を得てからの入居となる。又、加納な限り自宅での生活での生活環境を考慮し、担当する職員を配置することで、より早く安心、馴染んでいただけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決定した場合での面談だけでは、意向など聞き取りできない事も多くあるため、随時面談や電話連絡を行うよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の施設、包括ケアマネからの情報や家族からの情報本人からの要望を基にケアプランを作成し、1か月後に、職員や看護師の意見を踏まえてプランの見直しを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護されていると感じられることのないよう、介護させていただいているという気持ちを忘れずに支援させて頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の状況を把握しながら家族の負担・苦情とならないよう、面会や外出・外泊する機会をもうけていただけるようお願いしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能であれば家族以外の面会もお願いし、外出や外泊時にはサポートできるようにもつとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	和やかな雰囲気の中で過ごせるよう入居者間の人間関係を把握し、テーブルの配置や席に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからもホームに来ていただけるなど関係は続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望や意向については、本人本位になるようにと家族に説明し、プランに基づいた介護支援を記録に残している。介護記録以外でも個々の情報や気づきを書き入れるノートを準備し、活用し、職員が把握できるようにしている。	個々の情報や気づきを書き入れるノートを用意し、他の職員も把握できるように工夫して、その人らしくを意識し、一人ひとりの思いや意向の把握を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用されている施設や包括ケアマネ・家族からできる限りの情報を得るように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症の進行状況や身体状況は日々の支援やフロア会議でも話し合い、職員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議で、看護師や職員の意見本人や家族の意向を取り入れ、プランの見直しと作成を行っている。	看護師の参加しサービス担当者会議でプランを作成し、月1回見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や行った介護支援については、記録に残している、記録以外でも専用のノートを活用しており、ケアプランの作成にも活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療保険での訪問看護との医療連携、自治会との災害時の協力体制町で発行しているオムツ支給券、床屋割引券など様々な支援を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や往診は本人や家族の希望に沿っている、緊急時の対応でも医療連携体制ができてあり、安心できる環境にあると認識している。	協力医による往診と、1～2ヶ月に1回かかりつけ医による往診も行われ、通院時には家族対応を基本としているが、都合がつかない時は職員が同行している。家族が同行受診する時は日常の利用者の情報を提供している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制のもとで、入居されている方々の状態変化については、随時情報を伝え看護師からは迅速な対応をしていたただけであり、安心して介護支援に携わっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関については緊急時や入院・退院においても、グループ内の協力病院の医師や地域相談員との連携はなされている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居後に「特養」への申請も含め意向の聴取を行っている、重度化や終末期のあり方については、随時話合できる場をもうけている。	重度化した時の指針、看取りに関する指針が作成され入居時に説明し、重要事項説明書にも明記されている。重度化した時には随時相談が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や自己発生治は併設されている老健の医師や医療連携体制の下で看護師に指示によるよう備えている。緊急時の対応についての勉強会も教育委員会と企画されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会により、災害訓練は年間計画に沿って実施している。消防署職員が立ち会いされた時は票かや指導をいただいで改善につなげている。地域自治会とも協力体制を締結している。	防災訓練は今年度2回(6, 10月)行われ、10月には消防団や地域住民の参加のもと行われた。又、召集訓練や食料品等の備蓄、発電機の購入なども行われている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー・個人情報の保護・接遇の勉強会を実施している。日々一人ひとりに合った介護支援の実施に努めている。	法人の勉強会の必須項目なので、職員は年1回は受講して、言葉かけや介護に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居されている方々が可能な限り自己決定による生活がおくられるような配慮に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日をどのように過ごしたいかは、本人の意向に庄ようつとめており、その都度の確認も行い次につなげられるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張利用の活用や家族がカットに来られるよう等様々である、いつも身綺麗にしていられるよう気配りに努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を聞き入れた献立の作成につとめている。生活意欲の維持につなげるため、食材を切る、ちぎるなどの作業はできるだけ入居されている方々から行っていただいている。	献立担当者が利用者の希望を聞いて献立を作っている。行事等の食事も取り入れている。買い物は利用者も同行して意見を聞いている。調理のできる人は野菜の下ごしらえ等を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が献立を作成しているが、定期的に併設されている老健の管理栄養士から評価と指示をいただき対応している。食事摂取量の低下がみられた時は主治医や看護師へも報告と相談し、栄養補助食品など状態に合わせた支援も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医による訪問診察や航空ケアの指導にいれられた際に相談してもらい、実践につなげている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄サイクルの把握に努めている。使用しているオムツも随時検討し、オムツ外しにつながるようにも努めている。	排泄チェック表を利用して声掛けして、トイレでの排泄を基本としている。日中は介護度の高い1名を除き布パンもしくはリハパンで過ごしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の対策としては、看護師からのアドバイスや指示が頂け実践している。主治医には排泄状況の情報を提供し、対応と指示を頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴を原則としている、入浴拒否がみられた時は無理な促しはせずに、時間を空けたり、次の日に回したりなど、気分よく入浴していただけるようにはいりよしている。	週3回の入浴を基本にし、自分の希望で入浴している、湯上りにローションを利用し、皮膚の保湿をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室以外でも茶の間のソファでやすまれるなどして、特に制限することはせずに本人の希望を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書をカルテに綴じてあり、いつでも確認できる状況にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材を切る、ちぎる作業は可能な限り入居されている方々より、おこなっていただいている。週感レク・行事の企画に力をいれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の状況を把握しながら家族の負担・苦情とならないよう、外出・外泊する機会をもうけていただけるよう、外出・外泊する機会をもうけていただけるようお願いしている。季節を感じていただけるように、季節毎にバスハイクを企画している。	春は花見、6月は紫陽花、9月は海風浴、紅葉狩り等に出かけている。畑作業や、買い物への同行、家族と同行しての外出、更に誕生日には1,000円で好きな物を食べられる様な工夫がされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金規程により、家族から預かりしている方、少ない金額だけ自分で管理している方など、個々に対応している。必要な物は一緒に買い物に行く時もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙に関しては特に制限していない、希望があれば惜しむ事なく支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールないにはスナップ写真を提示し、日々の活動が家族も確認ができるようにしてあり、入居されている方々からもたのしんでいただけている。	いつも人の気配があり、安心して生活できる環境であるが、移動するスペースが狭く、やや利用者の動きが少ない面も見受けられる。又、職員の声掛け等の支援が望まれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	事故評価項目(21)と同様		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の自宅での環境を可能な限り取り入れるよう配慮している。場合によっては馴れ親しんだ物の持ち込みも受け入れしている。	各自の部屋は家族、職員の協力でその人らしく工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリー手すりの設置で安全対策はできている。トイレの場所や自室の場所が確認できるようにも考慮している。		